ISSN 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

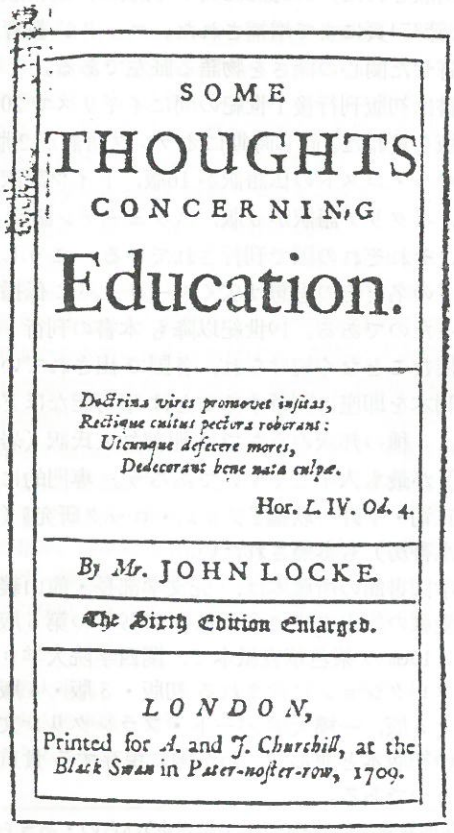
KOΣMOΣ

東洋大学創立100周年記念

本学は1987年に100周年を迎えます

コスモス No. 69 1985 春

特集 あなたも，きょうから，名探偵
—人物について調べるための本—



SOME
THOUGHTS
CONCERNING
Education.

Doctrina vires promovet insitas,
Rectique cultus pectora roborant:
Utcunque defecere mores,
Dedecorant bene nata culpæ.

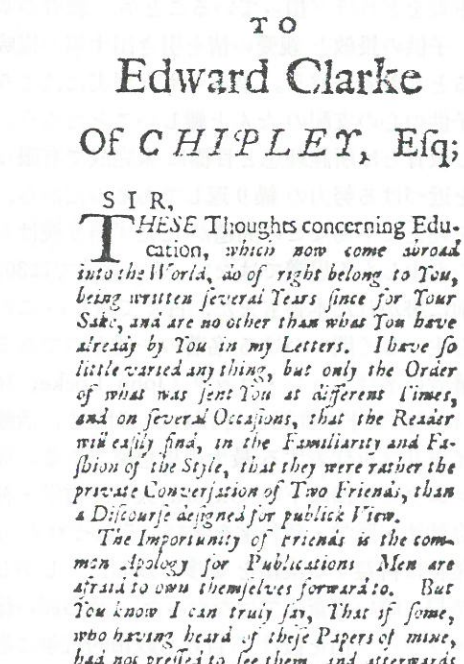
Hor. L. IV. Od. 4.

By Mr. JOHN LOCKE.

The Sixth Edition Enlarged.

LONDON,
Printed for A. and J. Churchill, at the Black Swan in Pater-noster-row, 1709.

ジョン・ロック著『教育に関する考察』第六版 標題紙



TO
Edward Clarke
Of CHIPLEY, Esq;

SIR,

THESE Thoughts concerning Education, *which now come abroad into the World, do of right belong to You, being written several Years since for Your Sake, and are no other than what You have already by You in my Letters. I have so little wanted any thing, but only the Order of what was sent You at different Times, and on several Occasions, that the Reader will easily find, in the Familiarity and Fashion of the Style, that they were rather the private Conversation of Two Friends, than a Discourse designed for publick View.*

The Importunity of Friends is the common Apology for Publications. Men are afraid to own themselves forward to. But You know I can truly say, That if some, who having heard of these Papers of mine, had not pressed to see them, and afterwards to have them printed, they had lain dormant

A 2

エドワード・クラークへの献辞

貴重書から

解題 ジョン・ロック『教育に関する考察』

——古くて新しい教育の書——

平野　耿

「健全な身体に宿る健全な精神とは，この世における幸福な状態の，手短かではありますが意をつくした表現です」(服部知文訳)。古い格言を枕に，本書の著者はさりげない口調で教育の問題を語り出す。たしかに世の中には，生来心身ともにその素質が卓越していて，他から助力を受けることを殆ど必要としない人もいるであろう。しかしこうした例はごく僅かで，10人のうち9人までは，教育によって良くも悪くも，有用にも無用にもなるのである。教育が人と人との間に大きな相違をもたらす所以もそこにある。だが身体の鍛錬を避け，賞罰のけじめを曖昧にし，自由と我儘を峻別できぬ親や教師の誤った愛情と怯懦が，子供の生育をどれほど損っていることか。教育の基本は，子供の畏敬と親愛の情を引き出す親の権威にあるとも著者は言う。昔も今も，現実にはこうした子供の心の支配のなんと難しいことだろう。しかし教育とは所詮理想と目標に未完成で有限な人間を近づける努力の繰り返しであるのだから，時空を超えて不易なこの問題がたえず語り続けられるのも少しも不思議ではない。その意味では300年以前に書かれた本書もまた，古くて新しいこの問題を生々しく問いかける名著の一冊なのである。

著者の名はジョン・ロック(John Locke，1632～1704)，天才の世紀と呼ばれる17世紀に活躍したイギリスを代表する最大の思想家である。彼はクロムウェル治政下のOxford大学で哲学・神学・自然法・医学・新科学を学び，それぞれの分野で後世に裨益する業績を数多く残した。しかし彼は時局に暗い書斎人ではなかった。議会派の総裁シャフツベリ伯を援けて自らも政治的抗争に巻き込まれ，1683年から5年半にわたりオランダに亡命して，専制王政と対決した行動の人でもある。そのオランダ滞在中，故国に住む同郷の友人エドワード・クラーク(Edward Clarke，1651～1710)の依頼に応えて，その子息の教育について留意すべきことを書き送った約10通の書簡が，のちに本書を編むきっかけとなった。したがって本書はもともと一般的な教育論として書かれたものではなく，ある家庭の父親に宛てた書簡の形式をとっている。内容的には将来紳士たらんとする子弟の「家庭教育」に重きを置いて，大衆的な学校教育には不信の念を表明している点に注目したい。これは当時のグラマ・スクールの非実際的教育と，生徒たちの間に広がる非行にロックが失望していたためであった。なにか現代日本の教育改革論議に一脈相通ずるところがあるのではなかろうか。

ところでクラークの保管する書簡を読んだ友人たちの強い要請もあって，帰国後ロックはそれに補筆訂正をし，1693年にロンドンで本書を出版した。しかし匿名の初版は誤植が多く不本意な出来だったので，彼はただちに補訂に着手し，2年後には増補第3版が，死の翌年1705年には最終第5版が出版された。202節262頁の初版は，最終版では216節374頁にまで増補された。ロックが教育問題に寄せた関心の深さを物語る証左である。

本書は初版刊行後1世紀の間にイギリスで20数回も版を重ねた。同じ時期にオランダ語訳が2版，ピエール・コストの仏語訳が16版，ドイツ語訳が3版，イタリア語訳が6版，スウェーデン語訳が1版，それぞれの国で刊行されている。こうしてロックの名とその思想は広くヨーロッパに伝播していったのである。19世紀以降も本書の刊行・翻訳は倦むことなく続けられ，各国で出されている各種刊本を即座に列挙することは不可能なほどである。3種の邦訳のうちでは服部知文氏訳(岩波文庫)が最も入手しやすいであろう。専門的には田中正司・平野　耿編『ジョン・ロック研究』(御茶の水書房)も参照されたい。

本学図書館の所蔵本は，元文学部長・龍山義亮先生愛蔵の龍山文庫に含まれる1709年の第6版。20cm×13cmの茶色革表紙本で，関西学院大学ロック・コレクションに含まれる初版・3版・4版・5版・6版，一橋大学バート・フランクリン文庫所蔵の初版本と並んで，わが国に現存する貴重書のひとつである。

〔工学部教養課程教授(哲学・思想史)ひらの・あきら〕

——ブックガイド（日本人名篇）

調べものをします。あなたには東洋大学図書館がある。さあ，**あなたも，きょうから，名探偵。**

	備　　考
	明治19年の田口卯吉編の校訂増補版。人名辞典のパイオニア。 上記を増訂し新版11版としたもの。明治・大正・昭和にかけて最も利用された。 1巻～6巻日本人，7巻現代人。歴史上の人物の略伝を知るのに良い。各項に執筆者名，出典，著書あり。
;)	原本は「日本人名辞典」（281.03：ＫＳ）明治37年までの故人を名で排列，文語体。 名が見出しで記述は簡単。異名，異称も広く含む。姓名索引あり。
K)	13,000名を収める。近現代に重点をおき神話，伝説の人物も含む。手軽だが充実。
S-2)	長文の解説，各人の肖像写真や肖像画，図版など多い。末尾に参考書欄あり。 本来は，国書総目録の索引であるが，ある著者の著作・変名を一覧できる。 ペンネームなどの別名から，それが誰であるかを知るための辞典。 39種類の人名事典のどれにどの人の記述があるかを知るための人名事典の事典。
川)	古代の文献から781年までの22,000名の人物，天皇から奴婢までを含む。 戦国時代後期に活躍した人物を中心に収録。 巻末に変名索引，藩校藩主一覧あり。類書に奈良本辰也監修の「明治維新人物事典」（210.58：ＮＴ：２）あり。
;)	「日本人名大辞典」覆刻版第１～６巻の補巻。1978年８月末までの物故者6,000名が追加される。
A)	戦後社会に広い分野で活躍した人をタレントまで含め日本人約4,000名収録。解説は個性的。 類書に「大正過去帳」昭和48（281.03：ＴＴ）「昭和物故人名録」1983（281.03：Ｓ-３）あり。
	1968～1981年までに死去した哲学・思想に関係した者約1,000名を収録。 類書に大川，南編「国学者伝記集成」２冊（121.2：ＯＳ：２）あり。 昭和10年の復刻。元和５年から昭和９年までに物故した人を収める。 3,000名余を収録。徳川期に重点をおく。号名で配列。 仏工も含む。僧侶の伝記事典として信頼あり。 道元より現代まで代表的な禅僧1,400名を収める。 参考文献に重点を置き，各人の来歴は簡略。 外国の王・皇帝に関する辞典。巻末に系図，ＡＢＣ索引あり。 黎明期から第２次大戦終了までに活躍した人約1,500名を収める。参考文献あり。 教育関係の人物を中心に思想家，心理学者を含め2,000名を収録。著作文献あり。 大正２年までの画家の伝記と落款印譜。類書に「古画備考」（721.035：ＡＯ）あり。 昭和９年の復刻で全４編から成る。伝記篇，落款印譜篇，索引篇より成る。 昭和29年の重版。人名のあと事項の解説あり。図版多し。 大正15年版の復刻。明治・大正時代の文芸・美術家1,600人余の評伝を記す。
5：N)	日本近代文学館収蔵資料をもとにする。文学と関連分野の人も収める。
OT)	戦後の文学と文学者に重点をおき作家名のあとに主要作品の解説，参考文献を記す。 時代別に並ぶ。巻末に人名，解題書目索引あり。参考文献多し。 物語・逸話・戯曲などに現われる人物を解説。 近代文学の登場人物のモデルが誰かを考える。各項目に，初出，梗概，モデル考，参考文献あり。

・秋田人名大事典	秋田魁新報社	昭和49	（281.03：Ａ-２）
・郷土歴史人物事典　滋賀	第一法規	昭和53	（281.03：WM）
・高知県人名事典	高知市民図書館	昭和46	（281.03：Ｋ-３）

この **特集** は **一匹狼** です。つなぎとめるには **ひと工夫必要** です。

特集　人物について調べるための本—

	「書　　名」	出版社	出版年（請求記号）
人名録	「朝日年鑑別冊　名簿統計資料篇」	朝日新聞社	昭和53＋　（059.1：A）（川）
	「毎日年鑑別冊　人名録」	毎日新聞社	1970＋　（059.1：M）
	「著作権台帳」	日本著作権協議会	昭和26＋　（281．03：C）（朝）（川281.03:
	「人事興信録」	人事興信所	昭和３＋欠号あり（281.03: J :2）（朝）（川28
	「近世人名録集成」	勉誠社	昭和51　（281.03:MS:4）（朝）（川281.03:
	「日本叙勲者名鑑」	日本叙勲者協会	昭和39＋　（281.03：N－3）
	「職員録」	大蔵省印刷局	昭和35＋　（317.035：O）（朝）（川377.0
	「文部省職員録」	文教協会	昭和36＋　（317.035：M－2）（朝）
	「全国大学職員録」	広潤社	昭和33＋　（377.035：Z）（朝）
	「研究者・研究課題総覧」	日本学術振興会	1979，1983　9冊（377.035：N）
	「ダイヤモンド会社職員録」	ダイヤモンド社	1958，76＋　（670.35：D－3）（朝）
女性	「大日本女性人名辞書」	新人物往来社	1980　（281.03：JI）（朝）
	「日本女性録」	日本探偵社出版部	昭和34　（281.03：C－2）
賞	「賞と記録の人名事典」	自由国民社	1973　（281.03：J－3）
名前の読方	「難読姓氏辞典」	東京堂	昭和52（281.034：OS）（朝281.03：OS
	「名乗辞典」	東京堂	昭和39　（281.03：AR）（朝）
	「国立国会図書館著者名典拠録　明治以後日本人名」　紀伊国屋		昭和54～56　4冊（281.03：K－4）（朝）
	「日本の苗字」	日本経済新聞社	昭和53　2冊（281.034：N）
肖像	「肖像選集」	吉川弘文館	昭和37　（281.038：N）
	「日本の肖像」	中央公論社	昭和53　（281.038：K）
逸話	「日本逸話大事典」	人物往来社	昭和42　8冊（281.08：N－2）（朝）
	「人物逸話辞典」	東京堂	昭和39～41　2冊（281.03：MS：3）
	「明治人物逸話辞典」	東京堂	昭和40　2冊（281.03：MS：2）
	「江戸市井人物事典」	新人物往来社	昭和49　（281.03：KK）
姓氏家系	「姓氏家系辞書」新編	秋田書店	昭和54（288：OA：4）（朝）（川288.1：
	「尊卑分脈」	吉川弘文館	昭和55　5冊（210.08：K-2：1-59/60，1
	「新訂寛政重修諸家譜」	続群書類従完成会	昭和39～42　26冊（288.2：K－2）
	「系図纂要」	名著出版	昭和48～52　18冊（288.2：K－3）
	そのほか，「寛永諸家系図伝」（288.2：K－5），「徳川諸家系譜」（288.2：T），「断家譜」（288.2：TY），「地下		
墓誌	「名人忌辰録」　ゆまに書房　（281.02：SS）		「関八州名墓誌」　村田書店　（281.0
その他	「現代執筆者大事典」	日外アソシエーツ	1978～79（021.3：G）（朝）（川281.03：T
	「擬人名辞典」	東京堂	昭和38　（281.03：ST）
	昭和50年をつくった700人　「文芸春秋デラックス増刊」第２巻３号　（Z未分類）		
人物に関する書誌	「日本人物文献目録」	平凡社	昭和49　（027.3：H）（朝）
	「人物文献索引」人文・法律政治・経済社会篇　国立国会図書館		昭和42～47　3冊（027.3：K－2）（朝）
	「人物書誌索引」	日外アソシエーツ	昭和54　（027.3：FH）（朝）
	「書誌年鑑 '82＋」	日外アソシエーツ	1982＋　（020.5：S）
	「年刊人物文献目録 '80＋」	日外アソシエーツ	1981＋　（280.3：MM）
	「年刊人物情報事典 '81＋」	日外アソシエーツ	1983＋　（280.32：J）
人名事典の文献目録	「日本の参考図書解説総覧」（028：N：3）（川028：N：4）P．776～779。　「早稲田大学図書館月報」（Z0		

〔注〕（朝），（川）は朝霞分館，川越分館にも所蔵されており，請求記号は白山と同じことを示します。（朝＿＿
このリストは人名に関する参考図書の一部分であって，すべてではありません。詳しくは係におたずね下さ

——ブックガイド（日本人名篇）

	備　　考
	人名録のほか物故者，官公庁，会社，各種団体の代表者名あり。以前の書名は「百科便覧」 各界の代表者15,000名を対象。またその年度の故人篇あり。外国人名篇も含む。
C:2）	「文化人名録」ともよばれる。著作権保有者の名簿であるが網羅していない。
0.3:J）	政治家・会社役員・教授など各界の中堅以上の人を収録。現在の版で約11万名収録。
MS）	江戸時代に刊行された代表的な人名録64編の復刻。 勲章受章者全員と褒章受章者の一部を収める。
35：Z）	官公庁と都道府県の係長以上の職員のみ収める。ポストと名前のみ。部長以上は住所あり。 国立大学の助教授以上は住所，電話番号，事務局は係長以上の名前がのる。 国公私，準大学，国立大学共同利用機関の専任講師以上の教員の名簿。 文部省調査にもとづく研究者人名録。人文社会・自然科学に分つ。1983年版の補遺あり。 全上場と非上場とにわかれる。本社は課長以上。支店・営業所等は部長以上の住所，電話，生年，趣味などがのる。
	初版は昭和11年。わが国初の女性人名辞典。架空の女性も含め約 2,000 名を収める。 議員，会社役員の夫人が多い。
	各界の賞 250 種，賞の解説のあと第一回からの受賞者名。
-2）	頭字の画数順に配列，巻末に韓国姓の読み方の一覧がある。 類書に難読姓氏研究会「ひきやすい難読姓氏辞典」　一二三書房　昭和41　（281.03：H）あり。 国会図書館が所蔵する明治以後の図書の著者ひとりひとりについて，国会図書館における読み方を，アルファベットで示す。姓の画引索引あり。 日本人の苗字の約90％を読み方の難易にこだわらず収録。表記・表音の各篇あり。
	聖徳太子から西郷隆盛まで，年代順に配列。解説あり。 京都国立博物館の展覧会の目録。高僧，公家，武将などの絵画，彫刻による肖像。
	上代から近代までの人物に関する 3,700 余の逸話を集める。見出しはおおよそ人物名。 文禄慶長年間から明治13～14年までの人物を対象。 類書に「大正人物逸話辞典」　東京堂　昭和41（281.03：MS）あり。 後篇として「江戸東京市井人物事典」　新人物往来社　昭和51（281.36：KK）あり。
OR）	明治以来の姓氏苗字の起源・分布・本支など。同著「姓氏家系大辞典」　角川書店　昭和38（288：OA）あり。
a-2）	室町初期までの諸家の系図の集大成。各人に世系，官位，略伝などを注記。 徳川幕府が集成した寛政10年までの家臣系図集。 内閣文庫本の影印版。安政 4 年までを収録。
家伝」（288.3：J），「雲上御系譜」（288.4：S），「系図文献総覧」（288.031：MK）などあり。	
2：TY）	「芸文家墓所誌」　村田書店　（281.02：YS）
J）	人文科学，社会科学関係の執筆者名約一万人と昭和40～51年に書いた主要著作を収める。 ぬけ作＝まぬけ　五平太＝石炭など普通名詞として使われている日本人名を収める。
	明治初年から昭和41年末までに刊行された日本人の伝記文献を収録。書誌年譜・図書・雑誌の順に類別。 国会図書館所蔵の日本語伝記資料（図書，雑誌，新聞，月報，パンフレット等）を被伝者のアルファベット順に配列。 1966～77年にかけて発表された人物書誌を収録。 「人物書誌索引」と同形式のものを収録した年刊版。 1年間の図書・雑誌から，伝記・日記・作家論・年譜・書誌などの日本語の人物文献を収録。 1年間にどの新聞・雑誌のどの号に登場したかを知ることができる。
29．7：W：5）　№ 237。　「辞典の辞典」（031：TJ）P．102～112。	

）（川＿＿＿）は各分館に所蔵されていることと各図書館での請求記号を記しております。
い。〔＋〕の印は継続して購入していることを示します。

特集 人物について調べるための本—

ロバート・パーカー書くところのボストンの名探偵スペンサーは，ボストン公共図書館でよく調

	「書　　名」	出 版 社	出 版 年（請求記号）
全　般	「大日本人名辞書」新版	大日本人名辞書刊行会	大正15　3冊（281.03：D）（朝）
	「大日本人名辞書」新訂版	大日本人名辞書刊行会	昭和12　5冊（281.03：D：2）（朝）
	「日本人名大辞典」	平凡社	1979　7冊（280.3：N）
	「日本史人名事典」	歴史図書	昭和50　（210.03：KS）（朝281.03：KS
	「日本人名事典」	大倉書店	大正3　（281.03：HY）（朝）
	「コンサイス人名辞典」日本篇	三省堂	昭和51　（281.03：K-2）（朝）（川281.03：
	「世界伝記大事典：日本 朝鮮 中国編」	ほるぷ出版	1978　5冊（280.3：S）（朝）（川280.3：
	「国書総目録：著者別索引」	岩波書店	昭和51　（025.1：K-2：1-9）
	「近代人物号筆名辞典」	柏書房	1979　（281.03：K-6）
	「人物レファレンス事典」	日外アソシエーツ	1983　7冊（281.03：N-7）
時代別	「日本古代人名辞典」	吉川弘文館	昭和38～48　7冊（281.03：TR）（朝）（
	「戦国人名辞典」増訂版	吉川弘文館	昭和48　（281.03：TM：2）（朝）
	「幕末維新人名事典」	学芸書林	昭和53　（210.58：B-2）（朝）
	「日本人名大事典：現代」	平凡社	1979　（280.3：N）（朝）（川281.03：N
	「現代人物事典」	朝日新聞社	1977　（280.3：G-2）（朝）（川280.3：
	「明治過去帳：物故人名辞典」	東京美術	昭和46　（281.03：OS）（朝）
分野別	「近代日本哲学思想家辞典」	東京書籍	昭和57　（121.9：K-5）
	「漢学者伝記集成」	関書院	昭和5　（121.02：TK）
	「漢学者伝記及著述集覧」	名著刊行会	昭和45　（121.3：OK）（朝）
	「儒海：儒者名鑑」	大久保書院	昭和50　（121.303：SK）
	「日本仏家人名辞書」増補再版	東京美術	昭和41　（180.21：WJ）（朝）
	「曹洞宗人名事典」	国書刊行会	昭和52　（188.8：S-5）（朝）
	「近世文芸家資料綜覧」	東京堂	昭和48　（281.03：K）
	「世界皇帝人名辞典」	東京堂	昭和52　（288.49：MI）
	「日本社会運動人名事典」	青木書店	1979　（363.03：N）（朝）
	「教育人名辞典」	理想社	1962　（372.8：K）（川370.28：K）
	「日本画家大辞典」	啓成社	大正2　（721.03：SA：2）
	「大日本書画名家大鑑」	第一書房	昭和50　4冊（728.028：AN）
	「浮世絵人名辞典」	美術倶楽部	昭和53　（721.8：ST：2）（朝）
	「明治大正文学美術人名辞書」	国書刊行会	昭和55　（910.3：MR）
	「日本近代文学大事典」1～3人名篇	講談社	昭和52～53（910.3：N-2）（朝）（川910.2
	「新版・現代作家辞典」	東京堂	昭和57　（910.35：OT：2）（朝910.35：但し旧版
	「俳諧人名辞典」	巌南堂	昭和45　（911.3028：TY）（朝）
	「日本文学作品人名辞典」	河出書房	昭和31　（910.35：YS）
	「近代名作モデル事典」	至文堂	昭和35（913.6：YS：2）
	◎各主題の専門事典にもその分野で活躍した人物の解説があります。		
地域別	・青森県人名大事典	東奥日報社	昭和44　（281.21：A）
	・長野県人名鑑	信濃毎日新聞社	昭和49　（281.03：N-6）
	・郷土歴史人物事典　香川	第一法規	昭和53　（281.03：K-5）
	◎各地域の百科事典（例えば静岡大百科事典）などにも人物が紹介されています。		

麟祥院の江戸時代

——東洋大学発祥の地——

東洋大学の前身，哲学館は，明治20年（1887）9月に東京市本郷区龍岡町31番地の臨済宗寺院，麟祥院の一室を借りて開設されました。最初は，教室は13坪（42.9㎡）余り，他の部屋を合せても，わずかに24坪（79.2㎡）にすぎない，いわば寺子屋のような出発でした。

約6ヵ月後には，麟祥院の一棟を借り，多少，校舎らしい体裁を整え，入学者は開館と同時に100名を越え，皆，熱心に勉学に励んだようです。

東洋大学の発祥の地である麟祥院は，山号を天沢山といい，住所もいまは地名が変り，文京区湯島4丁目1番地に，現在もあります。通称，からたち寺と呼ばれ，本郷3丁目の交差点を東に折れ，400mほど行くと麟祥院に着きます。東京大学のすぐそばです。

麟祥院は臨済宗妙心寺派に属し，臨済宗江戸四個寺のひとつで，寛永元年（1624）に，徳川家光の乳母春日局の願いによって，境内地1万坪(33,000㎡）を賜って建立されました。

もとは，報恩山天沢寺といっていたのですが，春日局の法号をとって，麟祥院に改めたものです。開山は京都の花園妙心寺より招かれた渭川周瀏和尚で，本尊は釈迦如来です。

本堂の左にある影堂には，狩野探幽の画いた，装束を着けた生前の春日局の絵がおさめられています。

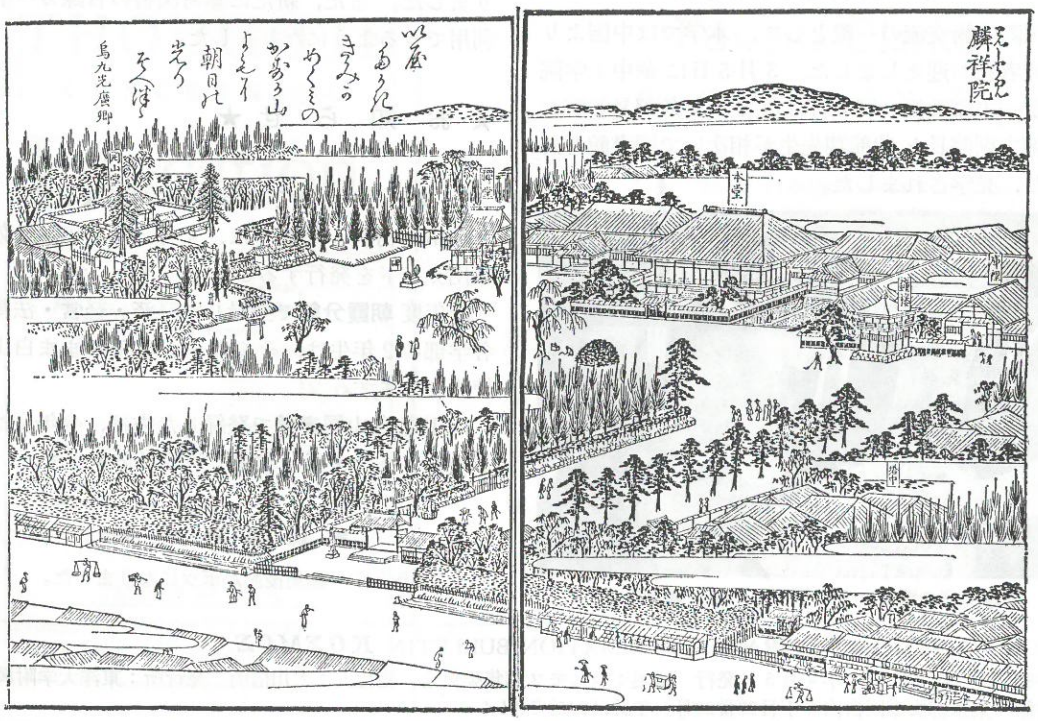
江戸時代には正月と7月のそれぞれの16日に，影堂を開け，春日局の絵をひとびとに拝ませたそうです。

下の絵は哲学堂文庫所蔵の「江戸名所図絵」巻之五に掲載されているものですが，当時の広々とした境内の様子を見ることができます。

麟祥院に関する資料

江戸名所図会　斎藤長秋著　天保5～7年刊
- 哲学堂文庫本　（へ：1：右：6～24）
- 日本図会全集　第1～4巻（291.02：N：1-¼）
- 日本名所風俗図会　第4巻（291.02：N-2：1-4）

江戸名所記　浅井了意著　寛文2年刊
- 稀書複製会本　（291.36：AR）
- 近世文学資料類従：古板地誌編　第8巻（291.08：K-2：1-8）
- 日本名所風俗図会　第3巻（291.02：N-2：1-3）



図書館 あ・ら・かると

★ 白山だより ★

「井上円了博士文献資料室」開設

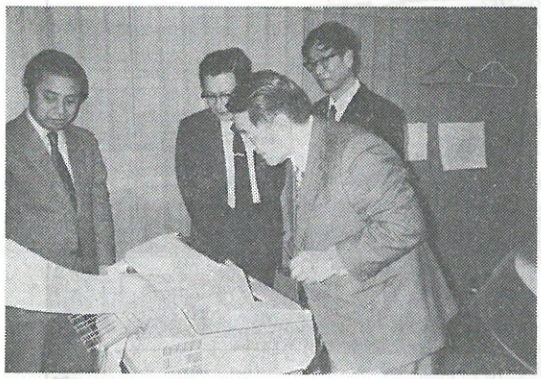
白山図書館4階の旧教員閲覧室を改装し，4月1日より「創立者井上円了博士文献資料室」が開設されました。ここには井上円了博士の著作，遺墨，本学の歴史に関する資料などが保管されます。またそれらの他に，学内の研究グループによる，井上博士に関する研究の成果をマイクロフィルム化したものもあわせて保管されます。最新鋭のマイクロ・リーダープリンターが導入されており，この機器で資料をコピーし，利用に供することになっています。

大学創立百周年記念事業の一環として，諸種の研究成果が順次公にされていきますが，この資料室がそれらの研究の一助となることが期待されております。

（展示コーナーでこれら資料のうち一部が公開される予定です。）

中国2大学よりお客さま

国際学術交流の一環として，本学では中国より研究者をお迎えしました。3月5日に華中工学院の黄一夫副教授，同6日には上海対外貿易学院の鄒博文副院長と黄龍翔先生が相次いで図書館を訪問し，見学されました。



雑誌業務の電算化をご覧になる鄒・黄両先生。

★ 工学部分館だより ★

新入生の皆さんへ—参考図書の利用について—

講義や自分の興味などで疑問を持った際には，まず「百科事典」「名著事典」「雑誌記事索引」等で調べてみましょう。これら参考図書は①ある事柄，②ある論文の概要，③ある雑誌論文の所在，などを調べるときに利用します。参考図書は開架閲覧室にあります。

適当な図書が見当らない時には，カウンターの係員におたずね下さい。当館に必要な図書が所蔵されていない時には，他の機関への問い合わせ，紹介もしております。

★ 朝霞分館だより ★

1985年版「継続受入雑誌目録」完成

この目録で雑誌名およびそのバックナンバーの所蔵状況が一目でわかります。

模様替えの季節

カウンターとカードボックスの位置が入れ替わりました。また，新たに参考図書の目録カードも利用できるようになりました。

★ お 知 ら せ ★

貸出カードが2年間有効になりました

白山・朝霞の両館では，4月から2年間有効の貸出カードを発行することになりました。

昨年度**朝霞分館**で登録した経済・経営・法律の各学部の2年生は，そのカードがそのまま白山で使用できます。

昨年度**白山図書館**で登録した方は，今年度は，ごめんどうですが，**改めて**登録が必要です。

▶ 編 集 後 記 ◀

とうとう，編集後記がボツになりました。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN *KOΣMOΣ*
1985 春（No. 69）1985年4月5日発行　編集：コスモス編集委員会　発行人：大川信明　発行所：東洋大学附属図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel.（945）7314